

# 医療の最前線レポート

ニューズウィーク日本版

# Newsweek

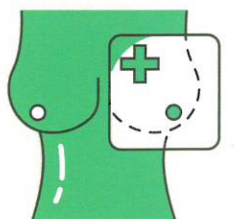
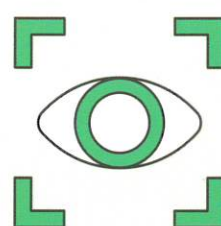
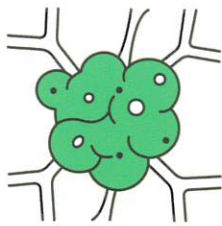
癌治療から  
再生医療まで  
医療界で続く  
挑戦と変革

# 世界の 最新医療



# 2024

- トピックス** 癌治療 前立腺 心臓病  
睡眠障害 矯正歯科 病院ランキング
- 研究&医療技術** 再生医療・幹細胞 眼科  
整形外科 生殖医療 乳腺科
- 予防&リハビリ** 認知症 糖尿病 内科  
AI 脂肪肝 マッサージ メンタルヘルス



# 医療の未来を現実にする、再生医療特化型施設を運営。

再生医療は、難治性疾患治療に新たな可能性を示す最新医療として期待を集めている。再生医療実用化を加速し、「当たり前医療にすること」を目指すASメディカルサポートの寺崎兼司社長に聞いた。



センター併設の朱セルクリニック(右)と九州再生医療リハビリセンター(左)。細胞培養施設と、再生医療治療の行えるクリニック、再生医療治療併用に特化したリハビリ施設の集約で患者に有益な医療を提供

進化する再生医療は、「夢の治療」となるのか？

細胞が持つ再生力を治療に生かす再生医療は、これまで有効な治療法がなかった疾患の治療への光明として、世界中で研究が進められている。

ASメディカルサポートは、再生医療に欠かせない細胞培養加工施設の運営をはじめ、医療機関が再生医療等安全性確保法を遵守しつつ安全に再生医療を提供できるようにサポートするコンサルティングなどを行う企業だ。

2021年には自己脂肪由来幹細胞治療を行うために不可欠な幹細胞の培養を行う九州再生医療細胞培養センター、厚生労働省の求める第二種および第三種再生医療等提供計画に準拠した、安全性の高い治療を提供する朱セルクリニック、再生医療に特化したリハビリ施設である九州再生医療リハビリセンターの3施設を集約した九州再生医療センターを福岡市にオープンさせた。

昨年1月に就任した寺崎兼司代表取締役社長は、「再生医療を安価で一般的な治療にすること、そこに貢献していくのが自分たちの役割」と、最終的な目標を語る。

これまでの治療とはまったく違うプロセスで疾患にアプローチする再生医療は、多くの患者にとって「希望の光」であることは間違いないが、新しい治療であるがゆ

えに、安全性がないがしろにされたり、誤解による行き違いが生じたりする危険性を孕んでいる。

「再生医療自体が可能性を秘めているのは間違いありませんが、希望の光だという側面だけにフォークラスして、あたかも『夢の治療』と宣伝するのはとても危険だと思います」

医療機関が再生医療を行う場合、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づき厚生労働省に再生医療等提供計画を提出する必要がある。同社では正しい理解に基づいた手続きやプロセスをサポートするコンサルティングを行っているが、正規の手続きを踏ま

ず、自分たちの治療が再生医療であるかのように広告をして患者を誘引する例も少なくないという。「厚生労働省から受理されていない。あたかも再生医療」が、高額なのに効果がなかったり、効果がないだけではなく健康被害を引き起こしたりしてしまつては、再生医療の未来に関わりません」

再生医療を用いた治療を行う際には、独自の知見や医療収益を確保するための経営的な視点も必要となるが、ASメディカルサポートは、再生医療を行う医療機関の相談窓口としても機能している。

### 最新医療の必然性が、自分ごとに変つた瞬間。

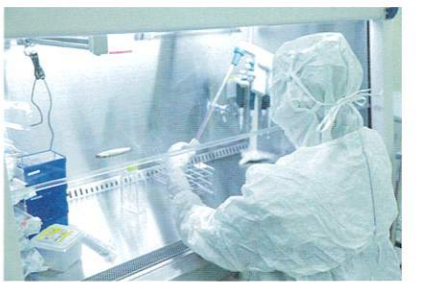
再生医療というと、2006年に京都大学の山中伸弥教授らが作

人たちがたくさんいました。あの光景は一生忘れないと思います」進行がんを患い、手の施しようがないと言われたとしても、生きることを諦める人はいない。困難な状況でも「生きるために」懸命に治療を続ける患者を目の当たりにした。

「私の場合は、治療がうまくいって今こうして元気に働いています。が、病院に運ばれてそのまま亡くなる方もいます。一命を取り留めても、後遺症で半身不随だったり麻痺が出てしまつたりした患者さんを、自分も患者として、病氣は違つても生きるための治療をしている。同志」のような視点で見たとき、現在の医学では救うのが難しい患者さんを救える可能性がある再生医療の価値がさらに浮き上がつてきました」

同時に脳裏に浮かんだのは、やはり幼少期を過ごした郷里の医療環境だった。「私の生まれた街では、たぶん今でも医療機関は一つかな？そこに住む人たちは長い間、体の不調があつてもすぐに医療機関で診てもらおうという選択肢すらありませんでした。私の父は、40歳くらいまで健康診断を受けたことはなかった。もし父が私の年齢でがんに罹っていたら……」

生育環境から、使命感をもつて選んだ道だったが、自らのがん罹患をきっかけに、思いはさらに強くなった。寛解、復帰を果たした



自己脂肪由来幹細胞治療において重要な細胞培養技術。培養した細胞の生存率の高さを維持する技術を開発

製に成功したiPS細胞を思い浮かべる人も多いかもしれないが、iPS細胞やES細胞などは研究が進み、一部治療段階のものもあるが、実用化にはもう少し時間がかかるのが実情だ。

「現段階で『細胞レベルで病気がすつかり治る』というのは過剰な期待ですが、かといってまだまだ実用段階ではないというのも誤りなので、現在行われている再生医療が適切に評価されるようになる」といって切に願っています」

寺崎社長がこう話すのには、もちろん日本の医療の発展を思えばこそだが、個人的な体験も関係している。

「私が生まれ育つた地域は、近くに医療機関がなく、現在よく言われている『医療格差』を身近に実感しながら育ちました。大人になつて感じたのは、地域に医療機関があれば助かるかもしれない、救える命があるかもしれないということでした」

2023年1月、代表取締役社長に就任し、さらに事業を前進させる立場になった。

### 3つの機能を統合した、再生医療の最前線基地。

ASメディカルサポートが日本の再生医療推進のために立ち上げたのが、2021年に稼働を開始した九州再生医療センターだ。前述のように、細胞培養施設、クリニック、リハビリ施設を備えた画期的な施設だが、当初は、培養施設のみでの開設を予定していた。

「従来は先行して始めていた脂肪由来幹細胞の培養事業が大きくなり、施設が手狭になつたので増設をするという目的で始まつたプロジェクトでした。しかし、ちょうどよく培養施設だけではもつたいないくらいの広さの土地が移転先候補に挙がってきたんです。そこで、クリニックとリハビリまでを集約した施設ができなかつたという発想が生まれました」

3つの施設が集約されたメリットは数多くあるが、まずはそれぞれの施設について見ていこう。九州再生医療細胞培養センターは、国内最大級の細胞培養施設だ。室内から室外への空気の流れを完全にシャットアウトするクリーンルームを備え、年間最大約1万2000検体の間葉系幹細胞の加工、運営管理を行うことができる。

「法整備がなかなか追いついていないなかで、さまざまな治療が

街に医療機関がない環境で育つた寺崎少年は、大学を卒業すると銀行員として働く道を選んだ。そこで医療機関への融資を担当、後に税理士事務所を開業し、医療機関のコンサルタントを行うようになった。

「直接的に医療に携わる職業を選んでいなかったのですが、子どもの頃の体験と、大人になってから見た都会の医療の充実ぶりとの差はずっと頭にありました」

医療に新しい可能性を提示する再生医療に出合い、今後の医療機関が担うべき役割、法整備や経営の重要性を鑑みて、これらを背負つてしまふことに疑問を覚えた。

「医師ではない私たちがそれぞれのスペシャリティを生かしてできること、私たちにしかできないこと、すべきことがあると思つています」ASメディカルサポートには創業時から参加していたが、昨年、こうした思いがさらに自らの切実な願いになる出来事があった。

「実は昨年、私自身ががんを患つたのです。幸い治療に効果があり、現在は寛解状態なのですが、自分の命が有限だという、ごく当たり前のことを改めて実感しました」

がん発覚当時の年齢は34歳。「まさか自分が」との思いがあつた。「がん宣告されたとき、病院のそこかしこで同じようにがんを告げられ、打ちひしがれ、泣いている

「再生医療」として取り上げられている現状はありますが、患者さん本人の細胞から培養された幹細胞を用いた治療である自己脂肪由来幹細胞治療は、厚生労働省から受理された、正確な意味での再生医療です。当社では、高品質の自己脂肪由来幹細胞を自前の培養施設で製作し、多くの患者さんの実際の治療に使用していただいています」

寺崎社長によると、九州再生医療細胞培養センターの培養技術の特徴は、細胞の「生存率」にあるという。培養した幹細胞は生きていなければ患者の体に投与してもうまく機能しない。幹細胞をいかに生きたまま体内に戻せるかによって、細胞の定着率が大きく変動するという。

また、単に幹細胞を増やすだけでは十分ではない。患者の血管内をスムーズに動ける大きさの細胞を厳選する作業も培養士の重要な役割だ。

「同施設内の治療に限らず、当センターで培養された細胞はすべて、培養した細胞を回収して投与されるまで一度も冷凍することなく患者さんに届けられます。これが細胞の生存率に関わる重要な点。加えて、経験やスキルを持った熟練の培養士が在籍していることもポイントの一つです」

経験豊富でスキルの高い培養士は、当然不足している。総面積469平方メートル、4



株式会社ASメディカルサポート 代表取締役社長  
寺崎 兼司 Kenji Terasaki

大学卒業後、銀行に就業し医療機関への融資を担当する。その後、医療コンサルタントに転職。並行して、30歳の時に税理士事務所を開業し、後に医療業へ特化。現在は株式会社ASメディカルサポートの代表取締役社長に就任し、再生医療の可能性を追求している。



株式会社ASメディカルサポート  
九州再生医療センター

〒813-0017  
福岡県福岡市東区香椎照葉3-4-10  
TEL.0120-765-888  
https://kyusuyasaiseiryoku.jp/  
■ 受付時間：9:00～18:00  
■ 休診：不定休  
■ 診療科目：内科

※保険適用外自由診療  
自己脂肪由来幹細胞治療・膝関節・股関節はか1,650,000円(税込)



独自の技術で年間最大1万2000検体の間葉系幹細胞の加工・運営管理が可能な国内最大級の細胞培養加工施設、九州再生医療細胞培養センター。難易度の高い脂肪由来の幹細胞の培養を実現

「再生医療を世の中に正しく広めていくこと」が、再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」

再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」

再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」



九州再生医療細胞培養センターでは、数千件の細胞加工実績がある培養士達が幹細胞を培養・管理している

部屋の培養室、前述のクリーンルームなどを備えた施設は国内随一で、恵まれた環境で仕事をしたい培養士が集まってくるのは想像に難くない。

「当初の計画通り、細胞培養加工施設を開設し提携するクリニックに培養した細胞を提供するだけ、という選択もありましたが、私たちとしては、『直接カスタマーを見たかった』というのがあります。自分たちの事業のなかでつくられた細胞がどう使われ、どう治療に役立っているのか、患者さんにとってどんな変化をもたらしているのかを見ることのできるクリニックを持つことで、驚くほど回復した患者さんの笑顔に触れる機会もでき、そういう姿はやっぱり事業にも大きな影響を与えてくれますよね」

「患者さんの本当にしたいことを実現するだけで、その患者さんの世界が変わるんです。自分で箸を持つてラーメンをすすりたいと希望している患者さんにとっては、ラーメンをすすることが幸せなんです。歩けるようになるだけじゃなく、思い切り走りたいたい！そこまでがんばるという患者さんがいたって当然いいですし、実際に半身麻痺からフルマラソンに挑戦、見事完走した患者さんもいます。そういう姿を見ることができると、リハビリまで責任を持って診ることのできる施設があるからです」

「再生医療専門クリニックで治療を受けて、地理的に離れた別の施設にリハビリに行く。継続しなればいけないことなのに、予約も含めたら予定が移動や待ち時間で埋まっていく。そういう無駄がなくなつたという患者さんの声もよく聞きます」

「再生医療専門クリニックで治療を受けて、地理的に離れた別の施設にリハビリに行く。継続しなればいけないことなのに、予約も含めたら予定が移動や待ち時間で埋まっていく。そういう無駄がなくなつたという患者さんの声もよく聞きます」

「再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」

「再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」

「再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」

「再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」

「再生医療を世の中に正しく広めていくこと。すべての人が、当たり前前に再生医療を活用して治療を行い、その効果を実感できるようなものになるのが理想です。もっと具体的に言えば、より多くの再生医療が保険診療になることです。健康保険証で再生医療を受けられるのが一番いい。そのためにはもっと多くの症例数、エビデンスを積み重ねていくしかありません」



九州再生医療リハビリセンターでは、再生医療とリハビリによるオリジナルのリハビリプログラムを作成する